

## 令和 3 年度 学校評価報告書（総表）

1 学校の概要			
学校名	筑波大学附属高等学校	校長名	藤生 英行
幼児・児童・生徒数（R4.3.1 現在）	733	学級数	18
2 教育目標等			
① 学校教育目標	<p>(1) 自主・自律・自由をモットーとする。</p> <p>(2) 全人的人間の育成という本校の伝統的教育精神を基盤として、知育、徳育、体育の調和をはかる。</p> <p>(3) 教科教育においては、特に、体系的かつ基本的な知識・技能・態度の修得の徹底を期する。</p> <p>(4) 特別活動においては、計画的、実践的、協力的人間の育成と生徒の個性の伸長につとめる。</p> <p>(5) 生徒指導においては、生徒の個人的な現実の問題の解決を援助するとともに、将来の進路の開拓を指導する。</p>		
② 学校経営方針	<p>(1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法等にのっとり、また本校の学校教育目標を達成するべく学校運営をすすめる。</p> <p>(2) 筑波大学の附属学校として教育実習や教員免許状更新講習等に協力し、また、先導的教育拠点、教師教育拠点、国際教育拠点の3つの拠点構想の実現をはかるよう教育・研究活動を推進する。</p> <p>(3) 全教員の積極的な参加と協力によって学校運営を行うことにつとめる。</p>		
③ 重点目標	<p>(1) スクール・ミッションとスクール・ポリシーの策定</p> <p>(2) 本校の将来構想の検討</p> <p>(3) 教育活動の外部への発信</p> <p>(4) 中長期的な校内の施設設備及び財政運営の検討</p> <p>(5) 教育・研究活動の scrap and build や事務の効率化による教職員の負担軽減</p> <p>(6) 保護者・地域住民との連携の強化</p> <p>(7) キャリア教育の充実</p> <p>(8) 情報セキュリティの強化</p>		
④ 前年度（令和 2 年度）の成果と課題	<p>(1) 情報セキュリティの強化については、外部講師を招き教員講習会を行い意識を高めるとともに、引き続き「筑波大学オンラインストレージシステム」の活用を推進した。</p> <p>(2) 将来構想委員会を中心とする本校の将来構想の検討については、教員の意識調査を実施するとともに教科指導におけるセールスポイントの絞り込みを行い、中長期的な計画を検討した。</p> <p>(3) 教育活動の外部への発信については、コロナウイルス感染拡大に伴い、対面の活動は充分には出来なかったが、入試広報部を中心にオンラインなど方法を工夫し可能な限り行えた。</p> <p>(4) 中長期的な校内の施設設備及び財政運営の検討については、保護者よりいただいている教育環境改善経費を用いた施設設備更新の中期計画に基づき、具体的に進められた。</p> <p>(5) 教育・研究活動の scrap and build や事務の効率化による教職員の負担軽減については、校務支援システムの導入を決定するに至ったが、本格始動は来年度に持ち越すこととなった。</p> <p>(6) 保護者・地域住民との連携の強化については、PTA からのアドバイスを受け、保護者アンケートを実施し、新たな寄付金制度を立ち上げた。</p> <p>(7) キャリア教育の充実については、お茶の水女子大学附属高等学校との合同キャリア教育プログラムを、オンライン等方法を工夫しながら可能な限り実施した。</p>		

### 3 重点目標達成についての総括的評価

- (1) スクール・ミッションとスクール・ポリシーの策定については、年度当初より一年間をかけて、教職員間で検討・協議を重ね、翌年度当初の発表に向けて、策定することが出来た。
- (2) 本校の将来構想の検討については、筑波大学将来構想検討委員会と連携し、将来構想に関する情報収集・研修会への代表者の参加を行った。
- (3) 教育活動の外部への発信については、引き続きの新型コロナウイルス感染症の影響で、対面での活動は十分出来なかったが、オンラインの代替行事を工夫しつつ行うことが出来た。
- (4) 中長期的な校内の施設設備および財政運営の検討については、雨漏り対策として屋上防水工事・校舎外壁塗装が行われ、電源設備の改善工事も行われた。また、教育環境改善経費を用いて、老朽化により使用の危険があったテニスコート・バスケットコートの補修を行った。
- (5) 教育・研究活動の scrap and build や事務の効率化による教職員の負担軽減については、校務支援システムの本格稼働も踏まえた校務の見直しを行う組織作りを行い、来年度当初からの取り組みに備えた。
- (6) 保護者・地域住民との連携の強化については、地域の関係機関とも連携し、災害発生時の対応を確認するための地域住民との集会を開催し、災害発生時を見据えた地域との連携を強化した。
- (7) キャリア教育の充実については、お茶の水女子大学附属高等学校と連携しての合同キャリア教育プログラムを行い、来年度の継続を決定した。進路行事 Milestone を4回開催し、大学や各界で活躍するOBOGから話を聞く機会を設けた。また「総合的な探究の時間」ではチューターに卒業生を招き、大学での勉学・研究についても学ぶ場とした。
- (8) 情報セキュリティの強化については、生徒の個人情報保護など情報セキュリティの強化に向け、校務支援システムを導入するなどの対策を実施した。

### 4 令和4年度の学校課題

- (1) 入学者選抜に関わる校内体制と手順の再検討
- (2) 将来構想委員会を中心とする本校の将来構想の検討
- (3) 教育活動の外部への発信
- (4) 教育・研究活動の scrap and build や事務の効率化による教職員の負担軽減
- (5) 保護者・地域住民との連携の強化
- (6) 情報セキュリティの強化
- (7) 中長期的な財政運営の検討

### 5 学校課題に向けての具体的な取り組み

- (1) 入学者選抜に関わる校内体制を見直す組織を作り、具体的な作業手順から再検討し、成果を校内で共有する。
- (2) 将来構想委員会において、「カリキュラム・マネジメント推進」「教科外活動検討」「校務整理推進」を中心に、2年間の計画で将来構想の検討を開始する。
- (3) コロナ時代に対応した新しい教育活動の外部への発信方法の検討を継続する。
- (4) 将来構想委員会での検討を生かしながら、教育・研究活動の scrap and build や事務の効率化による教職員の負担軽減について工夫をする。
- (5) 昨年度取り組んだ災害時を想定した対応を含めた保護者・地域住民との連携をさらに強化すべく、地域と連携した避難訓練の実施などを検討する。
- (6) 昨年度の校務支援システム導入・本格稼働の実績も踏まえ、情報セキュリティ強化対策の更なる改善について検討する。
- (7) 大学からの運営費交付金・学年費からの教育環境改善経費・後援会からの寄付等、各種財源を見渡しての中長期的な財政運営について検討する。

### 6 成果物一覧（出版物・紀要・書籍等）

「筑波大学附属高等学校研究紀要 第63巻」

# 学校評価（自己評価）報告書（項目別表）

令和 3 年度

学校名	筑波大学附属高等学校
-----	------------

項番	評価項目	具体的評価結果
1-1-2	視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の活用	1 学年では一人一台 PC となり、PC を有効活用した授業への取組みを開始した。また、2, 3 学年については、学校の PC を貸し出ししながら、一人一台 PC に対応した授業の一部先行実施を行った。
1-1-3	体験的な学習や問題解決的な学習、児童生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習の状況	各教科の授業において、実験実習を通じた体験的な学びや、学習したことから自分の考えを深めたり発表したりする学びを日常的に大切にしている。特に学習指導要領を先取りし 1 単位から 2 単位とした 1 学年「総合的な探究の時間」では、研究の基礎講座に加え、生徒個人別の基礎研究を行い、2 年次の本研究に向けた「研究へのアプローチ」の学びを強化した。
1-1-4	個別指導やグループ別指導、習熟度に応じた指導、児童生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補足的な学習や発展的な学習などの個に応じた指導の方法等の状況	「総合的な探究の時間」で主体的に研究に取り組むことを通して、自分の興味・関心の対象や得意な分野などについて考えさせることが出来た。卒業生から実際の仕事や研究について話を聞く機会を設け、卒業後の進路とも結びつけて考えを深める機会とした。
1-2-9	教育課程の編成・実施の管理の状況	令和 4 年度から学年進行で実施される学習指導要領に対応する教育課程を策定し、年度開始より「カリキュラム・マネジメント推進」について検討する組織作りに取り組んだ。
9-1-2	学校の状況を踏まえ重点化された短（中）期の目標等の設定の状況	本年度、屋上防水工事・校舎外壁塗装・電源設備工事を行うとともに、教育環境改善経費を用いテニスコート・バスケットコートの改修工事を行った。これを踏まえ、大学からの運営費交付金・学年費からの教育環境改善経費・後援会からの寄付等を見渡しつつ、今後の新たな目標設定に向け、検討を進めた。
10-1-3	児童生徒の個人情報の保護の状況	「筑波大学オンラインストレージシステム」を有効に活用するとともに、校務支援システムの本格稼働を進め、生徒の個人情報保護に取り組んだ。
11-1-1	学校運営への P T A（保護者）、地域住民の参画及び協力の状況。	向上会総会、理事会、保護者会については、新型コロナウイルス感染症の影響で、対面での実施が困難となり、概ねオンラインでの実施となった。保護者への情報発信については、オンラインを活用するなどの工夫をした。地域の関係機関と連携し、災害発生時の対応を確認するための地域住民との集会を開催し、災害発生時を見据えた地域との連携を強化した。
12-1-4	大学、附属学校教育局と連携した多様な学習内容・学習形態などに対応した整備の状況	令和 2 年度に整備した校舎内に加え、体育科・同窓会館等の中高共用施設についても無線 LAN を整備し、生徒の発表やグループ学習が快適に行える場所として充実させた。
14-1-4	教員養成・教師教育	例年通り、2 回の教育実習期間を設け、実施することが出来た。また、教員対象の研究会をオンラインで実施した。
14-1-5	国際交流・国際貢献	海外への訪問・海外からの生徒招聘は、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。オンラインを用いての代替行事においては、可能な限りの交流が実施でき、参加生徒の国際的な関心の継続に役立てることが出来た。